

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和5年6月6日 第11号
件 名	小学校で「ゲノム編集の野菜」を栽培させない、 食べさせないことを求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 300px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 220px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 100px;"></div> <div style="background-color: black; width: 270px; height: 20px; margin-left: 150px;"></div>
紹介議員	関川 けさ子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

## 請願理由

新しいバイオテクノロジーであるゲノム編集食品の安全性は不明です。現在、ゲノム編集食品が流通しているのは世界中で日本だけです。現在流通しているトマト、マダイ、トラフグに加えて、2023年3月からは、新たにトウモロコシの流通が可能になりました。ゲノム編集は、食品への表示もなく、動物に食べさせての長期試験も行われていません。そんな未知のリスクの可能性のあるゲノム編集トマトの苗が、2023年に小学校で無償配布される計画があります。未来を担う大切な子ども達に、動物実験よりも先にゲノム編集食品を食べさせることは倫理的に問題があります。

ゲノム編集技術の研究が進むにつれ、さまざまな問題点や危険性が明らかになってきました。ゲノム編集は特定の遺伝子を壊すことにより、生物のバランスや調和を壊し、意図的に障害や病気を作り出す技術と言えます。ゲノム編集は、目的以外の遺伝子を破壊する「オフターゲット」と呼ばれる現象が起きる可能性が指摘されています。目的以外の遺伝子が破壊されると、予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性があります。また、ゲノム編集には「抗生物質耐性遺伝子」が挿入されます。「抗生物質耐性遺伝子」が削除されずに体内に取り込まれると、抗生物質耐性菌が出現し、細菌が感染しても抗生物質が効かない体になる恐れがあります。

遺伝子組み換え食品は、1996年に流通が始まった際、食の安全に関する動物実験が行われていませんでした。その後、2000年に入ると徐々に動物実験が行われるようになりました。その結果を受け、2009年に米国環境医学会は、「これまで行われてきた多くの動物実験が、遺伝子組み換え食品と健康被害との間に強い関連性を示している」と声明を発表しました。ゲノム編集でも同様に、動物実験の数が増え評価が進むことで、有害性が判明することがあり得るのです。

市民団体「OKシードプロジェクト」の調査では、全国200を超える自治体がゲノム編集トマトの苗を「受け取らない」と表明しています。「受け取る」と回答した自治体はありません。ゲノム編集トマトの花粉が飛散し、交雑を起こせば、文京区以外の地域にも影響を及ぼす可能性もあります。文京区でも予防原則の立場に立ち、ゲノム編集トマトの苗は受け取らず、栽培させない、食べさせないで下さい。

以上のような観点から、文京区議会に対して下記の事項を請願いたします。

## 請願事項

- 1 動物に食べさせての安全評価がされておらず、目的以外の遺伝子の破壊により予想外の毒性やアレルギーを引き起こす可能性がある「ゲノム編集食品(上記のトマト含む)」は、文京区の小学校で子ども達に栽培させない、食べさせないよう区に求めること。
- 2 「ゲノム編集食品」の安全性の調査・研究を独自に行い、安全性が確認されるまで、「ゲノム編集食品」は、加工品を含め、学校給食に使用しないよう区に求めること。
- 3 「ゲノム編集食品」は食品表示がなく、知らずに購入してしまう恐れがあるので、「ゲノム編集食品」の表示を種苗・作物・食品にするよう国に求めること。